

がんと栄養

第14号
発行
NST がんと栄養チーム
2022年6月

今回のテーマは「食欲にかかわるお薬について」です

「薬」と聞くと、薬物治療の経験等から「食欲が落ちる物」と思っておられる方が多いと思います。しかし、お薬の中には食欲を改善する作用をもつ物もあります！

今回は、「食欲を改善・増加させるお薬」についてご紹介したいと思います。

食欲不振に使われるお薬

1 六君子湯



食欲促進因子であるグレリンの分泌を促進して食欲不振を改善します。
胃排泄促進・貯留能改善効果があるため、胃もたれなどにも使われます。
胃を切除された方にも使用されます。

★蒼朮、人參、半夏、茯苓、大棗、陳皮、甘草、生姜の8つの生薬からなる漢方薬です。

2 大建中湯



腸管運動を亢進するアセチルコリン、モチリンの分泌を促進して腸管の動きを整えるお薬です。
腸管の血流も増加させて腸管を温めるため、お腹が冷える痛み、腹部膨満感に効果があります。
便秘、術後のイレウス（腸閉塞）予防にも使われます。

★人參、乾姜、山椒、膠飴の4つの生薬からなる漢方薬です。

3 ガスモチン®(モサブリド)



セロトニン作動薬として胃や十二指腸にあるセロトニン受容体を刺激して消化管の運動を活発にするアセチルコリンという物質を遊離します。食べ物を胃から腸へ送り出す作用があるため、腹部膨満感や胸やけ、慢性胃炎など胃の動きの悪い方にも使われます。

4. アコファイド®(アコチアミド)



アセチルコリンの分解を阻害して消化管の運動機能を改善したり、胃の内容物の排出を促進したりします。通常、機能性ディスぺプシア※における腹部膨満感、上腹部膨満感、早期満腹感の治療に用いられます。

つねに胃もたれ感があったり、少量の食事ですぐに満腹感を感じる場合に適しています。

※機能性ディスぺプシア：胃粘膜に異常がなくても胃の動きが不十分であったり、胃が敏感であったりすることにより、「胃の痛み」や「胃もたれ」などの症状が長期にわたってあらわれます。

5. プリンペラン®(メトクロプラミド)



代表的な吐き気止めです。抗ドパミン薬で、胃や十二指腸にあるドパミン受容体を遮断することでアセチルコリンの遊離を促進し、消化管の運動を活発にします。

消化管に出血や穿孔、器質的閉塞のある方は使用できません。

長期服用によって、まれに錐体外路症状（すいたいがいる症状；パーキンソン病のようなふるえやこわばり、不随意運動など）があらわれる事があります。

6. ナウゼリン®(ドンペリドン)



抗ドパミン薬で、プリンペランと同様に抗ドパミン作用により消化管の運動を活発にします。

消化管出血や穿孔、腸閉塞などのある方は使用できません。

その他、化学療法の支持療法として処方されるデカドロン®（デキサメタゾン）やジプレキサ®（オランザピン）にも「食欲亢進作用」があります。

がん悪液質のお薬が発売されました

2021年に、「がん悪液質（あくえきしつ；詳細は13号）」の治療薬（エドルミズ®錠）が発売開始されました。肺癌・胃癌・膵癌・大腸癌の方が対象となります。食欲促進因子のグレリンと同じ作用をもち、食欲を促進して筋肉量や体重を増加させるお薬です。既往歴や併用薬など、事前に確認が必要な事柄もありますが、「試してみようかな？」と思われた方は、主治医にご相談ください。



「食欲」や「体重」について、お気軽にご相談ください



がん患者さんは、「頑張って食べているけれど、体重が増えなくて、どんどん痩せてしまう」という方も多いです。ご家族が「もう少し食べて欲しい・・・」と不安に感じている場合もあります。体力を維持して元気に治療を続けていくためにも、**がん悪液質を早く見付ける事が大切**です。「がんだから」と遠慮せず、「食欲」や「体重」についてお気づきの点がありましたら当院スタッフへお気軽にご相談ください。



次号の担当は看護師さんです。

どうぞご期待下さい。

(担当 薬剤部 油屋恵)

バックナンバーはこちらから
見ることができます

